

仙台市市民協働事業提案制度 平成30年度事業報告会

公共交通ラボ

株式会社都市設計
氏家滉一

参考資料



令和元年6月26日
都市局まちづくり推進課

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生

～産学官の懇談会から石井大臣へ提言がなされました～

本日、産学官のまちづくり関係者からなる「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」から石井大臣に対し、新たな時代のまちづくりの方向性：「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出により、イノベーションと人中心の豊かな生活を実現するべきとの提言がなされました。これを受け、石井大臣から、「ウォーカブル推進都市」を今後募集していくなど、今後の進め方が示されたところです。

- 「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」（座長：浅見泰司 東京大学大学院工学系研究科 教授）では、人口減少社会における付加価値の創出と地域課題の解決の場となる都市のあり方について、本年2月から8回にわたり議論を重ねてきたところ、本日、報告書がとりまとめられ、懇談会委員から石井大臣へ報告がされました。
- 報告書では、今後のまちづくりの方向性として、コンパクト・プラス・ネットワーク等の都市再生の取組をさらに進化させ、官民のパブリック空間をウォーカブルな人中心の空間へ転換し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成することにより、内外の多様な人材・関係人口の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現する都市を構築していくべきと提言されています。
併せて、まちづくりに必要となる「10の要素」や、国が講ずべき「10の施策」が提言されています。

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりのキーワード

W	E	D	O
Walkable	Eye level	Diversity	Open
歩きたくなる	まちに開かれた1階	多様な人の 多様な用途、使い方	開かれた空間が 心地良い

参考資料

「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」中間とりまとめ 概要③

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生

～都市におけるイノベーションの創出と人間中心の豊かな生活の実現～

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」形成のイメージ例

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進
※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能



居心地が良く歩きたくなるまちなか

Walkable	歩きたくなる	居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちなかに出かけたい、歩きたくなる。
Eye level	まちなかに開かれた1階	歩行者目線の1階部分等に店舗やラオプがあり、ガラス張りで見えれば、人は歩いて楽しくなる。
Diversity	多様な人の多様な用途、使い方	多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。
Open	開かれた空間が心地良い	歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。

都市構造の改変等

- 都市構造の改変（通過交通をまちなか外へ誘導するための外周街路整備等）
- 都市機能や居住機能の戦略的誘導と地域公共交通ネットワークの形成
- 拠点と周辺エリアの有機的連携
- データ基盤の整備（人流・交通流、都市活動等に係るデータプラットフォームの構築等）等



1.公共交通ラボとは？

【公共交通について語ることはまちづくりを語ることだ】

世界は今公共交通の再定義による新時代のまちづくりが大変熱いテーマになってます。

日本もようやくディスカッションが各地で始まり、新しい試みが進み始めました。そんな今、仙台でも新しい時代の公共交通について話し合いを始めてみませんか？。

まちづくりの議論は今自分ごととして、能動的に動くことが当たり前になりつつありますが、公共交通の議論というと、ユーザーである住民がこういう風にしてくれ、サービサーである自治体からは、予算の関係でできない。という応酬になりがちです。もう少し、提供する側と使う側がうまく絡めないかと思っています。また、公共交通というのも、自転車ぐらいまで、その範疇に入れて、考えるともっと広がるのではないかと思います。

また低炭素社会のことを考えると、いかに自動車を減らし、サステナブルな移動手段にするかが問われます。公共交通の利用促進と自転車の利用などが鍵です。

公共交通を考えることはまちづくりを考えること。

仙台を気持ちよく過ごせるまちにしたい人は是非ご一緒ください。

1-1. 公共交通ラボ事業のゴール

◆本事業では、以下の①～③を実施する。



①市民が意見や要望を話し合う場を作る
(方法) ワークショップやフォーラムの開催



②市民が持っている潜在的な交通のニーズを探る
(方法) 市民対象アンケートの実施



③ホームページでの情報発信
(方法) 公共交通に関する情報提供や本事業の周知

GOAL

抽出された市民のアイデアとアンケートの結果を
「実証実験の事業提案」「市民からの提言」として
取りまとめる。

1-2. 公共交通ラボの目指すもの

市民アイデア発
「社会実装事業」実現



「実証実験事業提案」
「市民からの提言」



市民アンケート
市民会議



ワークショップでのアイ
ディア

市民の「参加意識」
の醸成

1-3. 公共交通ラボ事業計画

◆事業進捗と計画について

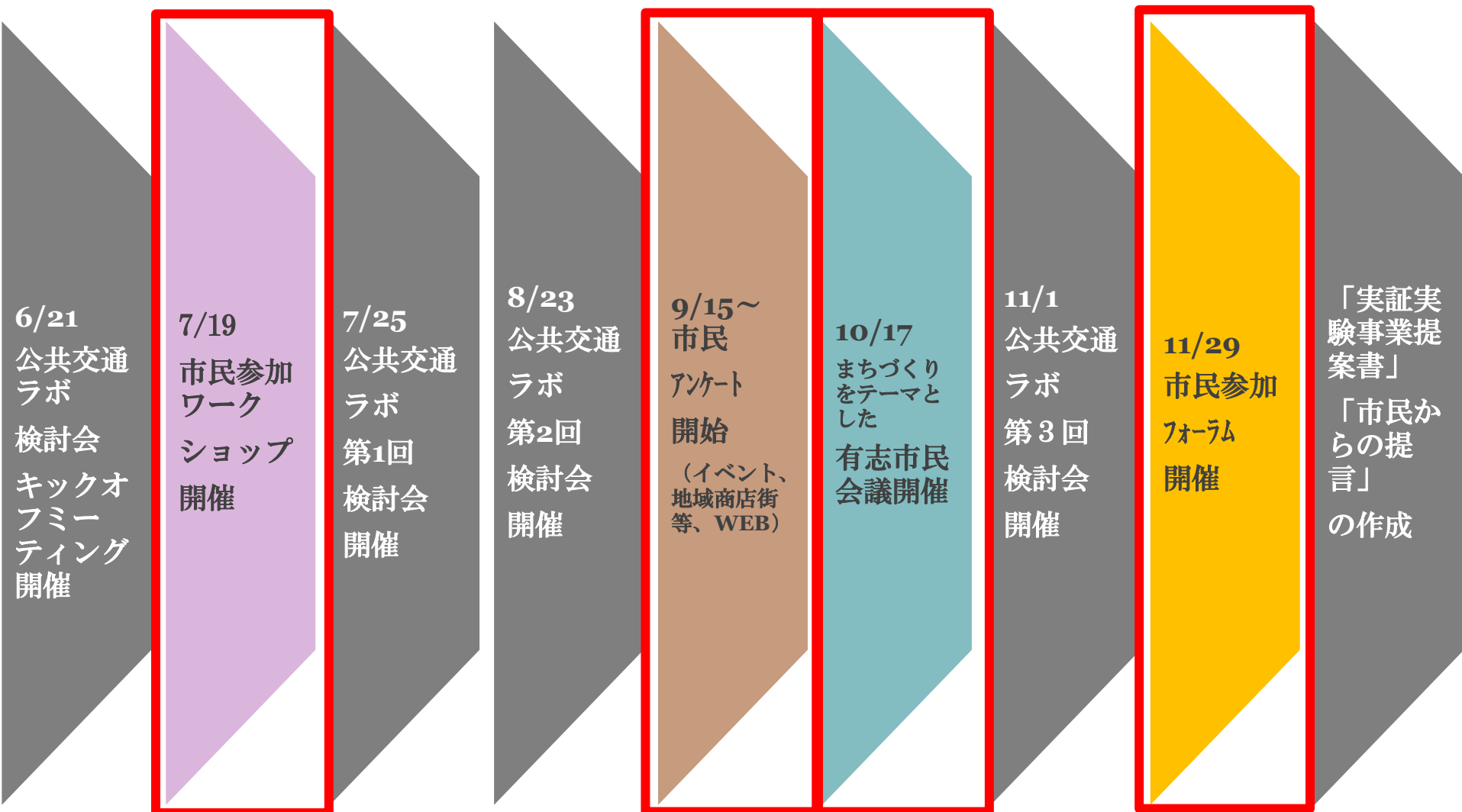
【公共交通ラボ】2018年事業計画

公共交通ラボ事務局作成

No.	項目	2018年										2019年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1	打合せ・協議	適宜調整の上、実施												
2	『公共交通ラボ検討会』の実施	メンバー検討	■検討会キックオフMT	■「検討会①」	■「検討会②」			■「検討会③」	■「検討会（まとめ）」					
3	『公共交通ラボ』ワークショップとフォーラムの実施		広報・運営	①「公共交通ラボ」ワークショップ開催 7/19(木)				広報・運営	②「公共交通ラボ」フォーラム開催 11/29(木)					
4	アンケートの実施					実施方法 調査票全	■第1回実施	■商店街等実施 結果集計	■WEB版開始	■第2回実施 ※フォーラム時	結果集計・分析など			
仙台市民・事業者（自治体）が対象。実施方法として仙台市主催・交通関連イベントでの実														
5	情報発信の実施	設計企画・コンテンツ検討・構築		■WEB立ち上げ										
6	他団体との連携活動	「公共交通ラボ」への参加、広報協力、人的リソースの確保や勉強会の実施など、適宜検討を行う												
7	報告書作成作業の実施			■ワークショップ開催記録の とりまとめ					◆中間報告書提出 (市民向け) ■アンケート結果 とりまとめ	■フォーラム開催記録の			■アンケート結果とりまとめ ■最終報告書とりまとめ	★ 報告書
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	

事業終了

1-4. 「公共交通ラボ」 事業の流れ



2-1.“市民が意見や要望を話し合う場”“市民が持っている潜在的な交通のニーズを知る”活動概要

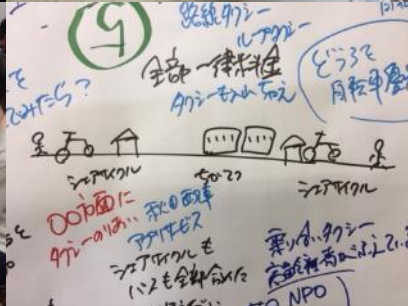
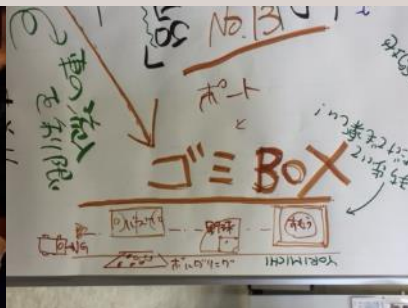
イベント等	開催概要
市民参加ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日時 2018年7月19日（木）19:00～21:00 ➤ 会場 株式会社メルカリ（仙台トラストタワー23階） ➤ 定員 60名 対象者 どなたでも参加可能 参加費 無料 ➤ 参加人数 58名 ➤ 内容 事例紹介3本、グループ討議（ワールドカフェ形式）
市民アンケート① （イベントでの実施）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日時 2018年9月15日（土）10:00～15:00 ➤ 会場 仙台市本庁舎前広場 ➤ 実施方法 ブース設置、来場者筆記回答（回収数108部）
市民アンケート② （地域での実施）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 開始日時 2018年10月3日～2月末 ➤ 対象 東西線東側商店街、地域コミュニティ、まちづくり団体
市民アンケート③ （WEBでの実施）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 開始日時 2018年10月31日～ ➤ 実施方法 WEB版アンケート（回答数33件）
市民会議	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日時 2018年10月17日（水）17:30～20:30 ➤ 会場 第2協立ビル「第3会議室」 ➤ 参加人数 10名 ➤ 内容 まちづくり活動に関わる方々と「公共交通」をテーマにした意見交換と市民からの6つのアイディアの深掘りを実施
市民フォーラム	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日時 2018年11月29日（木）19:00～21:00 ➤ 会場 TKPガーデンシティ仙台勾当台「ホール1」 ➤ 定員 100名 対象者 どなたでも参加可能 参加費 無料 ➤ 参加人数 51名 ➤ 内容 トークセッション、事業活動報告、パネルディスカッション

2-2. 市民参加ワークショップの開催

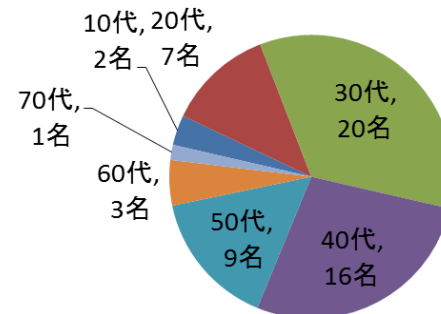
テーマ 『公共交通のこれから～「乗って楽しい歩いて楽しい仙台」を考える～』

『乗って楽しい歩いて楽しい仙台』を考えるワークショップ。「自転車」「シェアリングエコノミー」「歩きやすい街」などをキーワードに議論しながら、移動が楽しく豊かで住みやすい仙台の街の将来像や仙台でのライフスタイルを考える。

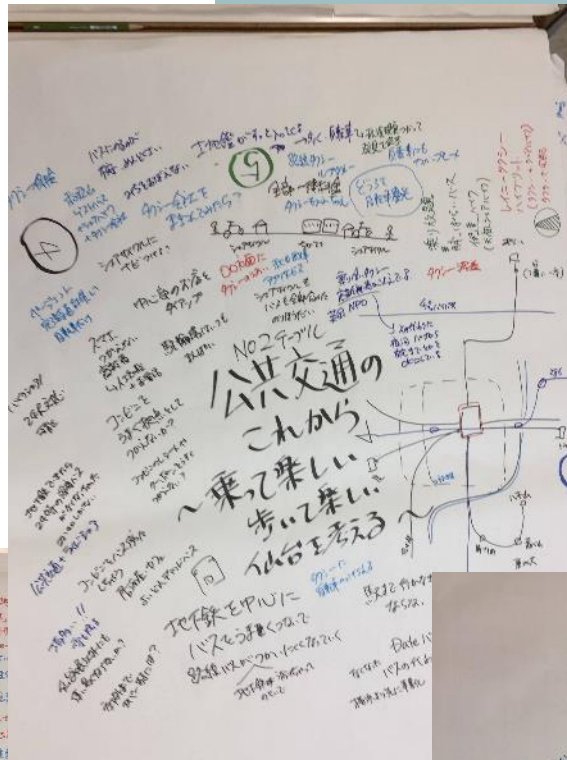
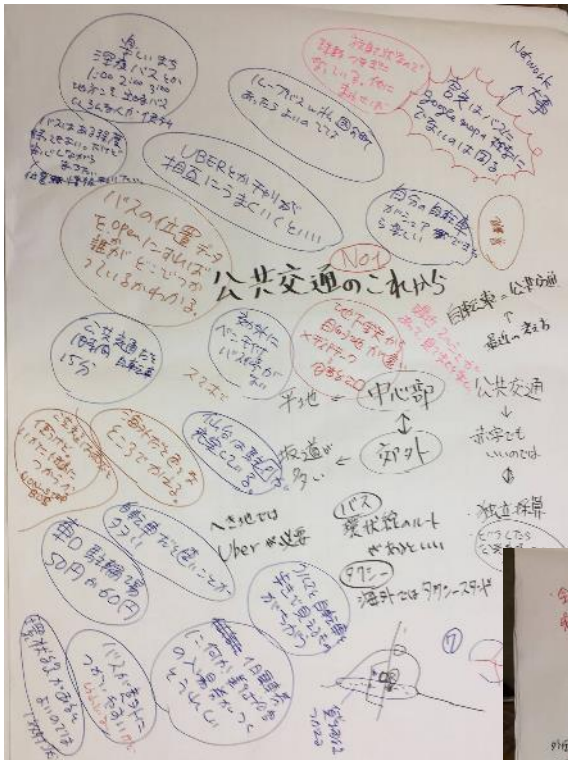
ワークショップの様子と参加申込者年代割合



ワークショップ参加申込者年代



参加者のターゲット層は、普段、公共交通について意見を伝える場などに参加する機会の少ない若手～就業者層としていた。呼び掛けに成功したとともに、各年代の方にお集まり頂けた。



公共交通のこれから

乗って楽しい 歩いて楽しい 仙台を考える

No29711

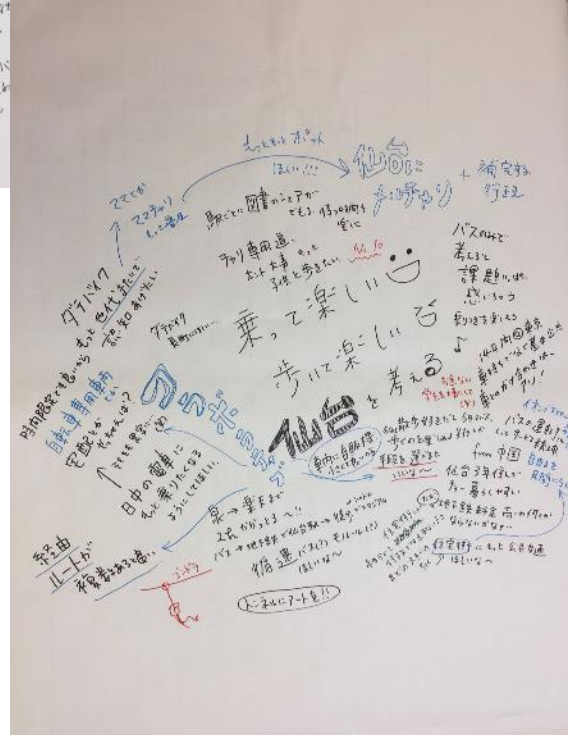
No29711

公共交通のこれから

乗って楽しい 歩いて楽しい 仙台を考える

No29711

No29711



2-3. アンケートの実施について

① イベントでの実施



【実施状況】

- ◆「9/15交通フェスタ」内
公共交通ラボブース
(回答108)



- ◆11/29公共交通ラボ主催
市民フォーラム (回答31)



② 商店街・地域・ まちづくり組織 での実施



【実施状況】

- ◆連坊・薬師堂商店街
(回答95)
- ◆八幡町商店街ファンコ
コミュニティ (回答41)
- ◆(一社) 国分町街づくり
プロジェクト (回答
14)
- ◆荒井なないろの里 (回
答25)



③ WEB版アンケート の実施



【対象と実施状況】

20～50代就業者層、自営業者、学生等。
WEプロジェクト関係者、
市民会議メンバー、東北
大学学生及び職員等 (回
答32)



2-4. 市民会議の実施

テーマ 「まちづくりと公共交通を考える」

参加者

WEプロジェクトメンバー※（4名）、公共交通ラボ関係者（3名）大学生（1名）、公共交通推進課（2名）
 ※WEプロジェクト（仙台市受託事業・地下鉄東西線開業を契機に沿線地域他の賑わい創出や新たな地域コミュニティ形成を促すため、「市民による」まちづくり活動の活性化を目的としたまちづくり人材育成事業（H26年～30年第5期活動中）

市民会議の様子と意見の一部



「バス停周辺の店舗やスペースの活用が新規産業創出や起業支援つながるのではないか」

「郊外に住む高齢者対応の乗り合いタクシーサービスも病院予約との連動によって効率があがり、事業が持続可能になるのではないか」

他、仙台市政策重点化方針2020との関連性の整理や位置づけの検討結果について発表があった。

2-5.市民参加フォーラムの開催①

開催概要・フォーラムプログラム

日時 2018年11月29日（木）19:00～21:00
 会場 TKPガーデンシティ仙台勾当台「ホール1」
 定員 100名 / 対象者 どなたでも参加可能 / 参加費 無料 / 参加人数 51名

テーマ 市民と考えるこれからの仙台と公共交通

開会 「開会挨拶」 竹内昌義氏（東北芸工大）
 「公共交通ラボについて」（株式会社都市設計・公共交通ラボ検討会）

第1部 トークセッション「仙台の現状とこれからの公共交通」
 ゲスト：吉田朗氏(東北芸工大)/聞き手：竹内昌義氏（東北芸工大）

第2部 公共交通ラボ検討会から報告「市民からの6つのアイデア」
 発表者：長江剛志氏（東北大）

第3部 ①意見交換
 パネリスト：吉田朗氏（東北芸工大）、竹内昌義氏（東北芸工大）
 長江剛志氏（東北大）、猪股正之氏（仙台バス株）、荒川雅光氏（国分町街プロ）、善積俊介氏（カフェモーツァルト）
 ファシリテーター：氏家滉一（株式会社都市設計・公共交通ラボ検討会）
 ②質疑応答
 ③会場アンケート（有効回答31件）

2-6. 市民参加フォーラムの開催②

フォーラムの様子



第1部トークセッション



ゲスト吉田朗教授



公共交通ラボ活動報告



パネルディスカッション①



パネルディスカッション②



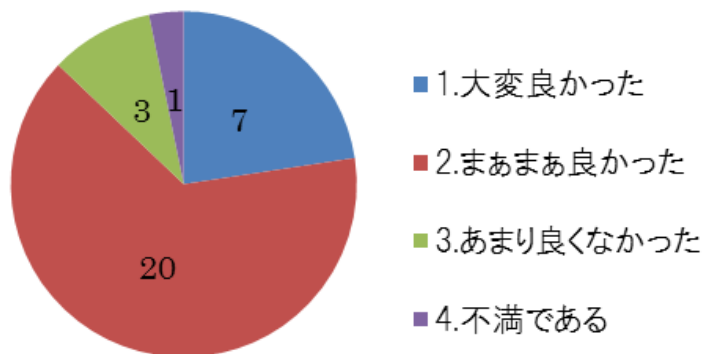
参加者との質疑応答

2-7.市民参加フォーラムの開催③

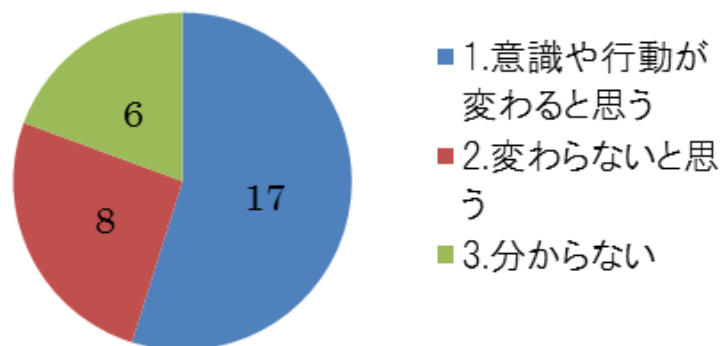
会場アンケートの結果（一部抜粋）

「公共交通ラボフォーラム」にご参加いただき、全体的にいかがでしたでしょうか？

Q1.以下のあてはまるものに○をつけて下さい



Q3.今後、ご自身がもっと「公共交通（バス、地下鉄、シェア自転車など）の利用」を意識するなど行動が変わりそうですか？



2-8.新聞への掲載



河北新報夕刊・河北オンライン 2018/7/16掲載

「自転車+公共交通=環境に優しい仙台へ」19日ワークショップ開催。公共交通をテーマにした市民とのディスカッションの場は珍しく貴重であると注目して頂いた。



河北新報夕刊・河北オンライン 2018/7/21掲載

「乗って楽しいまちづくり」シェアサイクル未来へこぎ出す～市民ら60人活用探る～」市民のアイディアは今後の実証実験への検討事項となると紹介された。



河北新報夕刊・河北オンライン 2018/11/30掲載

「自転車積載バス提案へ」仙台公共交通のフォーラム～他、市中心部での循環バス運行も実証実験の提案をする報告等について、専門家や事業者、来場者が意見交換を行ったことを紹介。

3-1. 「公共交通ラボ検討会」の発足

◆発足の理由

本事業を遂行する上での情報収集力と円滑性の向上のため、中心となるメンバー（有識者等）を招聘して「公共交通ラボ検討会」を立ち上げた。

検討会メンバー

竹内 昌義	（兼 事業アドバイザー）建築家/東北芸術工科大学 教授/みかんぐみ共同代表
長江 剛志	東北大学 工学研究科 技術社会システム専攻 准教授
氏家 滉一	株式会社都市設計 取締役 ブランディングディレクター
齋藤 悠太	東北大学 総合連携推進部 産学連携コーディネーター

仙台市都市整備局 総合交通政策部 公共交通推進課

検討会オブザーバー

岡田 真秀 NPO法人まちづくり政策フォーラム「交通を考える研究会」代表

3-2. 「公共交通ラボ検討会」キックオフミーティングの開催

開催概要

日時 2018年6月21日（木）17:00～

場所 仙台市本庁舎

参加者 検討会メンバー、仙台市担当課、事務局（7名）

内容

- ・ 検討会メンバー自己紹介
- ・ 7月開催予定の市民ワークショップの検討
- ・ 「公共交通ラボ検討会」の活動の方向性について

3-3. 「第1回検討会」の開催

開催概要

日時	2018年7月25日（水）10:00～
場所	仙台市本庁舎
参加者	検討会メンバー、仙台市担当課、事務局、オブザーバー（8名）
内容	<ul style="list-style-type: none">・7/19ワークショップの振り返り・アイデア整理と抽出、提案内容の検討・公共交通ラボ公式ホームページの活用法について

3-4. 「第2回検討会」の開催

開催概要

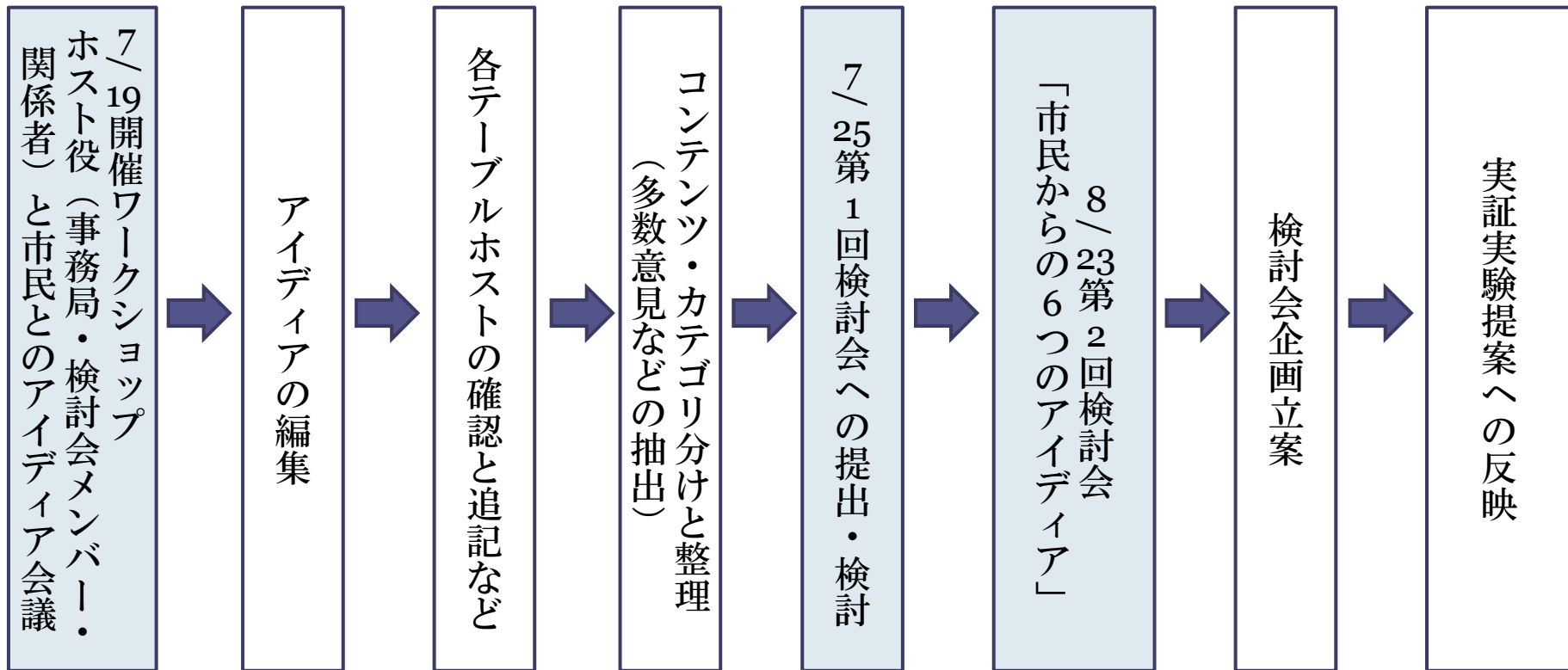
日時	2018年8月23日（木）16:00～
場所	仙台市本庁舎
参加者	検討会メンバー、仙台市担当課、事務局、オブザーバー（8名）
内容	<ul style="list-style-type: none">・「市民からの6つのアイディア」の決定・実証実験提案の内容について （6つのアイディアの中から、実証実験として事業提案書作成を行うものと市民からの提言として報告するものの選定）・市民アンケートの内容と実施方法、対象者、実施場所について

3-5. 「市民からの6つのアイデア」

ワークショップの開催、検討会での検討と抽出の結果として以下の「市民からの6つのアイデア」が抽出された。

- ① 仙台市の中心部を循環して市民の足となる循環バス
- ② 「DATEバイク」を補完するようなシェアバイクのサービス(より多くの自転車や駐輪場があり、特にバス停や地下鉄、電車の駅からすぐに利用できる)環境
- ③ バスや地下鉄の終電時間の後に利用できる深夜バス(例として、国分町などの繁華街から住宅地の多い郊外へ向けて運行される)
- ④ 目的地まで利用できる公共交通の乗継情報や運行状況、目的地周辺の地域情報(イベントや天候など)がすぐに分かるアプリ(インターネット情報)
- ⑤ 自家用車を持たない高齢者などが郊外の住宅地から市街地へ安価かつスムーズに移動でき、何人かで乗り合わせできる小型バスやタクシーの仕組み
- ⑥ バスや電車に自分の自転車も載せて移動ができる環境

3-6. 市民アイディアの検討の流れ



4-1. 「第3回検討会」の開催

開催概要

日時	2018年11月1日（木）16:00～
場所	仙台市本庁舎
参加者	検討会メンバー、仙台市担当課、事務局（7名）
内容	<ul style="list-style-type: none">・ 実証実験提案に向けての検証と今後の進め方・ 市民会議などを経た「市民からの提言」に関する検討・ 11/29開催公共交通ラボフォーラムについて・ 中間報告会について

4-2. 実証実験の検討について

◆ 実証実験の事業提案は、以下のポイントを検討します。



公共交通（特にバス）、と自転車、シェアサイクルサービスを組み合わせることによる利便性の向上が図れるもの



市民や観光客がイベント開催地や観光スポット等へ回遊することが容易となり、滞在時間の増加に繋がるもの



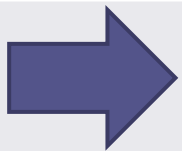
乗り継ぎがスムーズになることで外出の機会が増えるなど活動的なライフスタイルの変革に有用なものや健康増進に資するもの

4-3. 実証実験の検討について②

「バスや電車に自分の自転車も載せて移動ができる環境」の実現に資する実証実験

◇「サイクルバス」の実証実験の提案書作成に向けて

- a. 運用手法、ターゲット等の検討のため、先進事例を持つ事業者にはアヒアリング調査を実施する。調査結果の検討、モデル案の作成。
- b. サイクルバス運用実験のルートは、観光拠点でありサイクリングロードの整備や広報等で地域振興を推進している秋保地区とのルートを検討。



a.b.の実施と検討結果を反映させた実証実験の事業提案書を作成する。

4-4. 実証実験の事業提案として

⑥ バスや電車に自分の自転車も載せて移動ができる環境

「サイクルバス」の運行を検討



① 仙台市の中心部を循環して市民の足となる循環バス

ルートや料金の検討

地域活性へ繋がるようなイベントとの連携などの仕組みも検討

4-4-1.「サイクルバス」の運行を検討



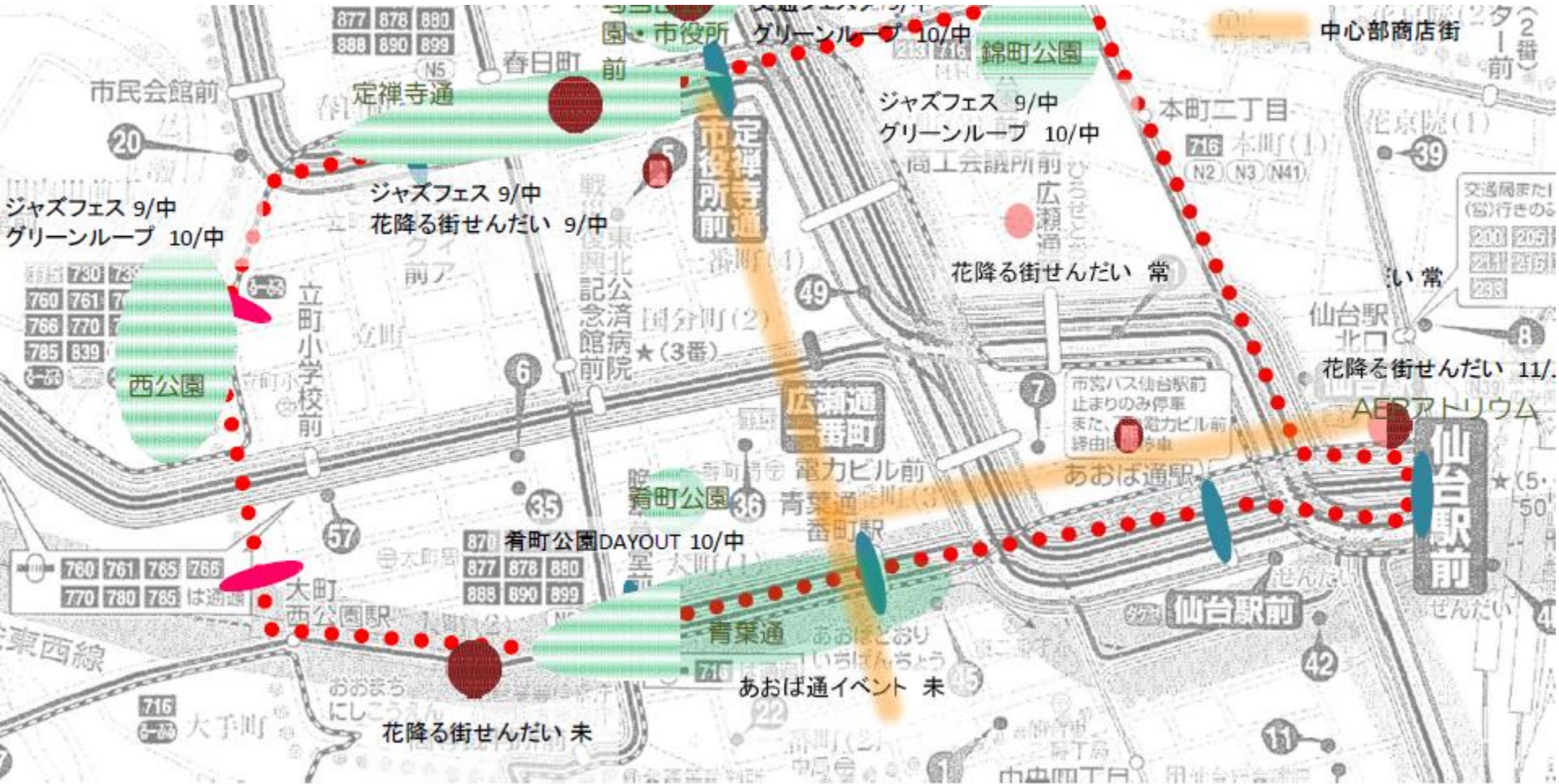
4-4-1.「サイクルバス」の運行を検討

- ・前方にラックを付けた車両を想定。車内への持ち込み、後方へのラック設置事例もあるが、前方の方が、利用時の様子が把握しやすい、運転手がサポートしやすい、万が一自転車が落下した場合も把握しやすいなどのメリットがある。
- ・車両の 1/10 までであれば、改造届け出の必要はなし。ナンバーの位置変更とラック取り付けで済む。
- ・自転車ラックは、神奈川中央交通と同様米国のスポーツワーク社製を輸入、取り付けを想定。ラック自体は 10 万円程度。取り付けには三菱ふそうによるバンパー改造。
- ・このラックはメンテナンスが楽。10 年間使用しているが、部品の交換はない。油をさす程度。
(神奈川中央交通調べ)
- ・運転手のオペレーションは、ラック使用が簡便のため特段ない。
- ・利用者へのオペレーションも、ラック使用が簡便のため特段ない。
- ・利用料金は 100 円で、降車の際に追加で支払う。

4-4-1.「サイクルバス」の運行を検討



4-4-2. 仙台市の中心部を循環して 市民の足となる循環バス



4-4-2. 仙台市の中心部を循環して 市民の足となる循環バス

※参考 平成11年度実証実験 都心循環買い物バス、通勤バス



**都心循環
買い物バス**

買い物等のため公共交通を利用して都心に来て
ても、都心の中での移動が不便。そんな市民
の声に答えて、都心循環買い物バスの実験運
行を行います。

都心循環バスの実験運行の概要



右図の商店街でお買物バス券参加店のステッカー
を掲示しているお店と、アエル、141、フォーラス
で3千円以上のお買物をすると、買物バスの乗車
券がサービスされます。

■実験期間/平成11年11月6日(土)~11月21日(日)

■運行時間/平日 7時~9時20分・17時~20時(通勤バス)
9時30分~17時(買物バス)
土日 9時30分~20時(買物バス)

※上記の運行時間は、仙台駅前バスのりばの時間です。



都心循環バスルート

買物バスルート (赤線)
通勤バスルート (青線)

● 買物バスのりば ● 通勤バスのりば ● 買物・通勤バスのりば

5. 今後の実施内容と展開

- ◎ パーソントリップ調査の結果を検証
- ◎ 「定禅寺通り活性化検討会」、「リノベーションまちづくり」など他のまちづくりプロジェクト、「GREEN LOOP SENDAI」
「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」などのイベントとの連携。
- ◎ 実証実験手法の検討・提案を行う
- ◎ 「市民からの提言」についての取りまとめを行う
「公共交通ラボ」が市民と行政と民間事業者間のつなぎ手として役割を果たすことによって・・・

実証実験
事業提案

市民から
の提言

社会実装
の実現

公共交通の利用促進活動等に市民発
アイデアが活かされている実感
⇒市民の「参加意識」の醸成
“乗って楽しい・歩いて楽しいまち
仙台”の実現（公共交通の乗り継ぎ
がスムーズ、歩行が安全・安心な環
境の整備などが推進されること）
⇒自動車利用が減り環境負荷低減に
繋がる、外出が容易になり、活動的
な生活を送ることで市民の健康増進
に繋がる